

# 中期学校経営方針に基づく学校評価「自己評価」

A：十分 B：おおむね十分 C：やや不十分 D：不十分

		職員 の 考 察				
		A	B	C	D	
<b>小 中 一 貫 教 育 の 取 組</b>						
六つ川中 <b>ブロック</b> ：六つ川中学校・六つ川小学校・六つ川台小学校・六つ川西小学校						
9年間で育てる子ども像 六つ川中学校が掲げている「自立のための基礎力」を本校でも6年間の中で育てていきたい。						
自校の 具体的取組	①学習活動、学校行事、特別活動など、様々な機会をとらえて、子どもたちが自ら考えて行動できるよう支援していく。	1	15	2	0	
	②確かな学力を育成していくために、ブロック内（MBC）で課題を共有して、指導方法の改善を常に図っていく。	1	11	6	0	
<b>重点取組分野</b>	<b>取 組 目 標</b>	<b>具 体 的 取 組</b>				
確かな学力	幅広い知識を身に付けるとともに、学んだことを基に、「柔軟に思考したり判断したり表現したりする力」を育てます。	①基礎基本の定着を目指し、朝のスキルタイムや読み聞かせ等の時間を有効に活用する。	4	13	1	0
		②日々の授業において、学習活動を自分事として捉えるとともに、自らの考えをしっかりと表現する力を育てる。	1	15	2	0
担当	学力向上	③特別に支援が必要な子どもたちの教育的ニーズを把握するとともに、校内体制を整えて支援する。	1	12	5	0
豊かな心	互いに協力し合う活動を通して、相手の立場や気持ちを思いやる心や態度を育てるとともに、自己肯定感を高めて自分を大切にすることを育てる。	①縦割り活動（きらきら活動）を充実させ、異年令同士のつながりを築くようにする。	1	3	9	5
		②「地域清掃」や芸術鑑賞会などを行い、学校や地域を大切にしたり、豊かな感性や情操を育てる。	1	5	6	6
担当	道徳	③道徳の時間の見直しと充実を図り、自他を大切にすることを育てる授業を展開する。	5	13	0	0
健やかな体	心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけるとともに、自他の生命を大切にできるようにする。	①「六つ西体力アップタイム」を充実させ、短なわ・持久走に継続的に取り組めるようにする。				
		②養護教諭と連携し、「歯磨きタイム」や「歯の衛生週間」などを通して歯磨き指導を徹底する。				
担当	体育	③長縄に継続的に取り組み、年間を通して運動に親しむようにする。				
児童生徒指導	きまりを守り、友達と協力して学校生活を送ろうとする意識を高める。	①指導における学校としての「スタンダード」を確立し、全職員共通理解のもとで、指導する。	1	14	3	
		②「あいさつ、清掃、感謝、けじめ」を大切に、様々な場面で、取り上げ指導する。	1	14	3	
担当	人権・児童指導	③月ごとの生活目標に重点をおき、目標に対する意識を高める。	1	10	7	
地域連携	地域を愛し、地域に愛される子どもたちを育てる。地域から見える学校づくりを行う。	①地域のお祭りに積極的に参加する。	0	2	6	10
		②学校便りや学校ホームページから、学校での取り組みを発信する。	4	10	2	2
担当	地域連携	③「六つ西懇話会」「MBC学校運営協議会」「全市一斉パトロール」等で児童の様子を発信する。	2	11	3	2
いじめへの対応	子どもたち一人一人が安心して学校生活を送り、受け入れられていると実感できる環境を全職員で作上げていく。また、道徳の時間や人権教育の充実を図る。	①毎月開催する「いじめ防止対策会議」において、各担任が「気になる児童」を取り上げて全職員で共通理解を図る。	7	10	1	0
		②定期的な「いじめアンケート」を行い、児童と担任、専任との面談につなげる。時には、管理職や保護者も同席する。	3	12	3	0
担当	いじめ防止対策委員会	③いじめが発覚した際は、すぐに校長が「いじめ対応委員会」を開催し、必要に応じてSSW、市教委にも入っていただき解決に全力を傾ける。	4	13	1	0
人材育成・ 組織運営	全教職員が学び続け、力量を向上することができるよう、また、よりよい改善がしていけるように、組織作りを形成する。	①職員会議などが効率よく進行できるように組織の見直しや修正を積極的に行う。	1	12	5	0
		②初任者の育成に全職員が関わって、実践を伴うメンター研修を月1回実施する。	1	13	3	1
担当	メンターチーム 主幹教諭	③校内研修を計画的に実施し、児童指導・人権・いじめの早期発見や危機管理能力など、教師の力量を高めることができるよう努める。	1	15	2	

・コロナ禍において児童の協同的・自治的活動が難しくなった。  
・係活動の充実を図った。児童自身の企画や計画を大切にしながら活動を進めた。

・朝の学習時間は大切だと感じる。  
・児童支援専任と連携して対応できた。  
・授業時間が少なくなったなかで全ての学習をすることが優先になった。効率良く繰り返しスキルをアップする手立てがとられていた。

・コロナ禍においても実施可能なことをやってきた。  
・できない活動も多かったが、その中で工夫しながら児童の意識を喚起するものができた。

・コロナ禍でのルール、集団としてのあり方などを意識できた。  
・あいさつの指導が難しいと感じる。

・児童に地域を意識させる活動が欲しかった。地域とのつながりが見えなかった。  
・学校便りをはじめ、様々な情報をHPを通じて発信できた。  
・休校期間もあり、HPの発信力は高まった。

・いじめ防止対策会議を月1しっかりととることの意義は大きいと感じる。  
・SSWとの連携も図れた。

・学年主任・児童支援専任に相談でき、安心して学級経営が行えた。